

# 令和3年度 清水町議会

## 清水高校生模擬議会会議録



令和3年10月5日（火）

# 令和3年度 清水町議会清水高校生模擬議会会議録目次

(令和3年10月5日)

清水町議会清水高校生模擬議会日程表	1
出席議員	2
出席説明員	2
協力	2
事務局	2
修礼	3
議員の動静報告	3
議長挨拶	3
議会運営委員会委員長の報告	3
町長挨拶	4
開会宣言	5
開議宣言	5
議事日程の報告	5
日程第1 議席の指定について	5
日程第2 会議録署名議員の指名について	5
日程第3 会期決定について	5
日程第4 一般質問	5
・若者が集まる町にするために必要な施策について	
3番 岸上 楽 議員	5
2番 木下 大地 議員	7
・清水町の特産品のPRについて	
4番 伊達光紗葵 議員	12
5番 中林寿泉奈 議員	13
・アイスホッケーを通じた町おこしについて	
6番 真野 寛也 議員	17
7番 水口 晴斗 議員	18
8番 白鳥 太陽 議員	19
・清水町の公園の在り方について	
9番 西垣 波音 議員	22
10番 片岡 剛琉 議員	24
閉議	26
副議長挨拶	26
講評	27
生徒代表挨拶	29
閉会	29
修礼	29

令和3年度 清水町議会清水高校生模擬議会日程表

令和3年10月5日(火)

時 間	項 目	要旨・発言者等
13:30	修礼	
13:30	議員の動静報告	
13:31	議長挨拶	
13:32	議会運営委員会委員長の報告	
13:38	町長挨拶	
13:40	開会宣言	
13:40	開議宣言	
13:41	議事日程の報告	
13:41	日程第1 議席の指定について	
13:41	日程第2 会議録署名議員の指名について	
13:42	日程第3 会期決定について	
13:43	日程第4 一般質問	若者が集まる町にするために必要な施策について (1番 小野田 蓮、2番 木下 大地、 3番 岸上 樂) 清水町の特産品のPRについて (4番 伊達 光紗葵、5番 中林 寿泉奈) アイスホッケーを通した町おこしについて (6番 真野 寛也、7番 水口 晴斗、 8番 白鳥 太陽) 清水町の公園の在り方について (9番 西垣 波音、10番 片岡 剛琉)
休憩 (14:35)		
再開 (14:45)		
15:25	閉議	
15:26	副議長挨拶	
15:27	講評	
15:36	生徒代表挨拶	
15:38	閉会	
15:38	修礼	
	記念写真撮影	

## 出席議員（9名）

2番 木下大地 議員  
3番 岸上 樂 議員  
4番 伊達光紗葵 議員  
5番 中林寿泉奈 議員  
6番 真野寛也 議員

7番 水口晴斗 議員  
8番 白鳥太陽 議員  
9番 西垣波音 議員  
10番 片岡剛琉 議員

欠席届出 1番 小野田 蓮 議員

## 出席説明員

町長	阿 部 一 男	農林課参事	水 野 秀 明
副町長	山 本 司	商工観光課長	前 田 真
総務課長	神 谷 昌 彦	建設課長	内 澤 悟
総務課参事	山 田 寿 彦	水道課長	小 林 進
総務課参事	竹 中 直 也	会計管理者兼出納課長	青 木 光 春
企画課長	鈴 木 聡	御影支所長	本 田 雅 彦
税務課長	青 沼 博 信	学校教育課長	大 尾 智
町民生活課長	斉 木 良 博	社会教育課長	藤 田 哲 也
保健福祉課長	佐 藤 秀 美	社会教育課参事	安ヶ平 宗重
子育て支援課長	近 藤 芳 行	農業委員会事務局長	高 橋 英 二
農林課長	寺 岡 治 彦		

## 協力

北海道清水高等学校

校長 吉 村 教 賢 様  
教頭 藤 本 純 一 様

教諭 小 林 哲 也 様

## 事務局

議会事務局長 田 本 尚 彦  
議会事務局次長兼係長 宇 都 宮 学

議会事務局総務係主事 長 谷 川 真 弓

### <修 礼>

○事務局長（田本尚彦） ご起立願います。礼。ご着席願います。

### <議員の動静報告>

○事務局長（田本尚彦） 議員の動静について報告致します。本日の模擬議会に出席の議員は、清水高校3年生の木下 大地(きのした だいち)さん、岸上 樂(きしがみ がく)さん、伊達 光紗葵(だて みさき)さん、中林 寿泉奈(なかばやし すみな)さん、真野 寛也(まの ともや)さん、水口 晴斗(みずぐち はると)さん、白鳥 太陽(しらとり たいよう)さん、西垣 波音(しがき なる)さん、片岡 剛琉(かたおか たける)さんの9名が出席であります。なお、小野田 蓮(おのだ れん)さんにおかれましては欠席の届け出があります。

本日の模擬議会は、清水町議会桜井議長が議長を務めます。

### <議長挨拶>

○議長（桜井崇裕） 会議に入る前に一言ご挨拶申し上げます。本日は、清水高等学校関係者ご出席のもと、また、阿部町長はじめ町執行側のご協力を頂き、この模擬議会が開催される運びとなりました。町議会では議会活性化の取り組みとして、昨年について模擬議会の開催について高校とご協議させていただき、色々ご準備をいただいてこのように開催できる事を改めて関係者の皆様に一言お礼を申し上げます。本日はよろしくお願いたします。

### <議会運営委員会委員長の報告>

○議長（桜井崇裕） ここで、模擬議会の開催について、議会運営委員会委員長より報告があります。

議会運営委員会委員長 中島里司 議員

○議会運営委員会委員長（中島里司） 模擬議会の開会に当たり、開催までの経緯と共に本会議の運営について報告いたします。

模擬議会は、議会活性化の取組の中で、町民の声を聴取する場の設定として示されました。

議会では清水高等学校と協議を重ねながら、令和2年度に3年次「総合的な学習の時間」の地域研究の学習の中で、模擬議会で一般質問を行う取り組みを、町執行側のご理解とご協力の下に実施し、一般質問を通じてよいまちづくりに積極的に参加する体験をしていただきました。

今年度参加する10名の高校生の皆さんは、今議長から報告がありました1名の方は本日欠席ですけれども、10名の方におかれましては、4月から地域の実態調査とまちづくり案の作成に取組、6月29日と9月28日には議会議員が高校にお伺いして共に学習し、本日の一般質問に臨んでいます。

本日の模擬議会では、皆さんからの質問に対して、阿部町長以下はじめとする町の課長職の方々に、本番の議会同様答弁していただきます。

模擬議会議員の皆さんには議席に座り、本番さながらの体験をしていただきます。私たち議員は皆さんの後ろに座り、一般質問のやり取りを傍聴させていただきます。

今日の模擬議会は全体で2時間を予定しています。4項目の一般質問について限られた時間の中で、皆さんが感じたまちの課題や、地域の将来にとって必要な施策につ

いての考えをしっかりと伝え、明確な将来像に繋がる答弁を引き出すよう取り組んでください。

なお、議場における新型コロナウイルス感染症の予防及び拡大防止のための対策として、議場の扉を開放して会議を行います。会議中はマスクを着用することとし、発言の際もマスクを着用したまま発言するようお願いいたします。

最後に、一般質問の方法につきまして、お願いを申し上げます。一般質問では、質問の回数制限はなく、今日の模擬議会では1項目について、答弁時間も含めおおよそ20分以内とします。ただし、初回は質問事項の全部を一括して述べ、再質問からは一問一答とします。

会議において発言をしようとするときには、挙手して「議長」と呼び、議長の許可を求めなければなりません。

議長の許可を得た後、議席で発言することができます。

皆様にごできるだけ分かりやすい議会運営にするためにも、質疑、答弁の際にはマイクに向かい、大きな声で、簡潔明瞭に発言されますよう皆様のご協力を特にお願いいたします。

以上、議会運営委員会の報告といたします。

○議長（桜井崇裕） 議会運営委員長から報告がありましたが、報告のとおり進めることに異議ありませんか。

（異議なしの声）

○議長（桜井崇裕） 異議なしと認めます。委員長の報告のとおり進めることに決定しました。

#### <町長挨拶>

○議長（桜井崇裕） 開会前に、阿部町長から模擬議会開催に当たりご挨拶をいただきます。

町長。

○町長（阿部一男） 皆さんこんにちは。ただ今紹介を受けました清水町長の阿部でございます。どうぞ、本日よろしく願いをいたします。

皆さんの顔を見ると少し緊張しているかな。緊張しているのは私たちも同じです。いつも議会になると我々少し緊張感を覚えるのですけれども、今日はまた違った、少しいつもの議会とは違った緊張感を覚えるところでありますと同時に、ただもう一つ、少し皆さんがいろいろな意見を素直に述べてくれるなど、そんなこともありましてこれからどんな議論になっていくのかということも含めて、少しわくわくした感じも覚えているところでございます。

既に質問の通告はもらっておりましたので、しっかりとまず私が最初に全ての項目について答弁をしたいと思っておりますし、それからまた今回は、更に再質問の部分についても一覧表にもらってございますので、こちら側に居る担当課長と私も含めて、それらについてもしっかりと皆さんのね、意見に答えていきながら、今日のこの模擬議会が、素晴らしい議論の場となるように期待をしているところであります。

2時間という短い時間ですけれども、本当にこれからよろしく願いしたいと思っております。私の挨拶終わらせていただきます。

#### <開会宣言>

○議長（桜井崇裕） ただ今の出席議員は9名です。これより模擬議会を開会します。

#### <開議宣言>

○議長（桜井崇裕） これから、本日の会議を開きます。

#### <議事日程の報告>

○議長（桜井崇裕） 本日の議事日程につきましては、お手元に配布のとおりであります。

#### <日程第1 議席の指定について>

○議長（桜井崇裕） 日程第1、議席の指定を行います。  
議席は、ただ今各議員着席のとおり指定いたします。

#### <日程第2 会議録署名議員の指名について>

○議長（桜井崇裕） 日程第2、会議録署名議員の指名を行います。  
会議録署名議員は、会議規則第126条の規定により、議長において  
5番 中林寿泉奈議員、8番 白鳥太陽議員、10番 片岡剛琉議員 を指名します。

#### <日程第3 会期決定について>

○議長（桜井崇裕） 日程第3、会期決定についてを議題とします。  
お諮りします。本模擬議会の会期は、本日1日にしたいと思います。  
これにご異議ありませんか。  
(異議なしと呼ぶ者あり)  
異議なしと認めます。会期は本日1日と決定しました。

○議長（桜井崇裕） 一般質問に入る前に、あらかじめ申し上げます。  
最初の質問は、通告の全項目について、一括して質問していただき、再質問がある場合は、一問一答方式になります。  
なお、質問と答弁は、初回を含めて全て自席で発言いただきますよう、よろしくお願いいたします。  
また、質問・答弁にあたっては、わかりやすく、簡潔に行われるよう特にお願いいたします。

#### <日程第4 一般質問>

○議長（桜井崇裕） 日程第4、一般質問を行います。  
順番に発言を許します。 3番 岸上 樂 議員。

○3番（岸上 樂） 若者が集まる町にするために必要な施策について。

私たちは若者が集まるために必要な施策について考えてきました。

清水高校の生徒を対象に行ったアンケートでは、回答者90名のう



ち8割以上の生徒が「清水町は活性化していない」と答え、ファストフード店やカラオケ店などの飲食店や遊戯施設がほしいと考えていることが分かりました。

現在清水町にはこれらの施設やボウリング場やショッピングセンターなど若者が集まる施設がありません。また、駅周辺や8月末に閉店したいちまるなど、多くの空き施設が見られます。

昨年の模擬議会で五十嵐唯翔さんも提案していましたが、スケートボードは東京オリンピックで日本人メダリストを多く生み出し、今大注目を浴びていて、一大ブームが起きています。本州では多くのスケートボードパークがあり、小・中学生をはじめとした若者達が集まっています。

町を活性化させるためには、若者の力が必要です。若者が集まる町にするために、改めてスケートボードパークの設置を提案します。

小項目（1）清水町の35歳以下の人口減少を止めるための対策として、この数年間の中で実施した施策と今後の計画について教えてください。

（2）清水町体育館の建て替えについて、町民からどのような意見が出ていますか。また、昨年の模擬議会での提案後スケートボードパークの併設についてどのように検討されましたか。

（3）いちまるの跡地の活用について、スケートボードパークを設置する事業者を誘致することは、若者が集まる施設として有効だと思いますが、どのように考えていますか。

（4）スケートボードパーク設置に際し、メダリストをアドバイザーや指導者などに就任してもらうことで集客効果が高まると思うが、どのように考えますか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 町長。

○町長（阿部一男） それでは小野田議員、木下議員、岸上議員の3名からのご質問に、順次お答えをいたします。

まず、若者が集まる町にするために必要な施策についての小項目1点目、清水町の35歳以下の人口減少を止めるための対策として、この数年間の中で実施した施策と今後の計画についてお答えします。

現在、取り組んでおります人口減少対策において、明確に35歳以下をターゲットにした施策はありませんが、35歳以下の方に大いに関係する施策として、結婚支援、子育て支援、住宅支援などがあります。

具体的に、結婚支援では、結婚のきっかけとなる出会いの場を創出し支援する「コイノヨカンププロジェクト」や新婚世帯に対し家賃や引っ越し費用などを助成する「新婚新生活支援事業」などがあります。子育て支援では、出産祝金の支給や高校生までを対象とした医療費の無償化、小中学校における修学旅行費の全額助成など、子育てしやすい環境を整える取組を行っております。住宅支援では、15歳以下の子どもがいる世帯が住宅を取得する場合に、奨励金を交付する事業となっております。

また、それ以外の取組としては、清水で育った若者が地元で親しみを持ち、清水に住み続けてもらえるよう「十勝清水学」の学習や大学などを卒業した後、清水町に居住し就職した場合に奨学金の返済を免除する取組などを行っているところであります。

今後の計画といたしましては、将来を担う若者が清水町に住み続けられるようこれまでの取組を継続するとともに、その時代に合った施策を考えていきたいと思っております。



次に小項目2点目の清水町体育館の建て替えについて、町民からどのような意見が出ているかというご質問にお答えをいたします。昨年度、年齢構成別無作為抽出により体育館建設に関するアンケート調査を実施しました。この中で、「新しい体育館に望むことは何ですか」との問いに対しましては、「町民が気軽に運動できる健康づくりの拠点」としてほしい旨の回答と、「緊急時の避難施設や防災施設としても利用できる施設」を望むとの回答が多く、「新しい体育館にどのような機能や設備を望みますか」との問いに対しては、「トレーニング室の充実」「避難所の機能」の整備を求める回答が多かったところです。

また、スケートボードパークの併設の検討については、国内競技人口や施設整備に係る事業費の調査を現在進めているところであります。

続いて3点目のいちまる跡地利用につきましては、現在、施設の所有者であります日本甜菜製糖株式会社と情報を共有しながら、利活用の方法について協議しているところであります。

ご提案いただきましたとおり、スケートボードパークを設置する事業者を誘致することも有効な活用方法だと思います。

スケートボードは、先の東京オリンピックにおいて正式種目となり、日本のメダルラッシュに沸いたあの光景は、多くの若者の記憶に新しく、若者が集い、町を活性化する手段として、非常に魅力的だと考えております。

しかし、現在、町内の大型スーパーが1店舗となったことから、不便を感じている方も多く、清水町全体の生活の利便性も考えた上で、施設所有者である日本甜菜製糖株式会社と協議を重ね、事業者の誘致等にも努めてまいり所存であります。

続きまして4点目のメダリストの招へいについてであります。スケートボードパークを設置する方向となった場合には、スクール教室やイベント開催が事業運営の柱となりますので、オリンピックメダリストなど、大きな集客効果が期待できる指導者体制を検討して参りたいと考えています。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（桜井崇裕） 質問を受けます。 2番 木下大地 議員。

○2番（木下大地） 2番、木下大地です。小項目1番のところ、現在コロナウイルスの影響があると思うが、今の時代に合う施策について、町長の考えをお伺いします。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 企画課長。

○企画課長（鈴木聡） 現在コロナに関しましては9月30日をもって緊急事態宣言は解除されまして、若干の気持ちの明るいところが出てきているところかと思えます。ただ、コロナウイルスについては油断がないものだと思っておりますので、今後も気を引き締めながら感染防止対策に努めながら各施策を進めていきたいと考えておりますし、ただ今後の施策に関しましては、ご存じの通りオンラインですとか、そういう技術開発が進んでございます。また、AIやICTといった関連もございます。そういったいろいろな技術を活用しながら、いろいろな町民の皆様のご意見を頂き、その上で町民の皆さんの議論をしながら、より有効な施策を打っていきたくと考えてございます。

○議長（桜井崇裕） 2番 木下大地 議員。

○2番（木下大地） 住宅支援施策は去年何回使用しましたか。



○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 企画課長。

○企画課長（鈴木聡） 現在取り組んでおります子育て世帯への住宅支援でございますけれども、新築を対象としまして100万円若しくは80万円が奨励金となりますけれども、これが昨年度は19件、中古住宅につきましては50万円という奨励金になりますけれども、これが2件という形になりますので、21件の奨励金の交付となったところでございます。

○議長（桜井崇裕） 2番 木下大地 議員。

○2番（木下大地） もしその施策が無かった場合、移住者の数はどのくらい変化しますか。答弁をお願いします。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 企画課長。

○企画課長（鈴木聡） この住宅支援が無かったらということなのですが、具体的にどういう人数がということまではまだ分析しきれないところがございまして、やはりこの辺の地域で行けば、住宅を持つというのは一つの定住施策になるかと思えます。ですので住宅を持つのが、ここが、清水にいかん住宅をもって定住していただくかというのは大切なことだと思っております。その中で奨励金があるということは、帯広市近郊よりも建てやすくなるということはあるかと思っておりますので、その点については効果があったのではないかなと思っております。もしこの奨励金が無かったとしたら、やはり利便性を求めて住宅を建てる場所を選定した可能性もありますので、その点についてはこの奨励金というものは有意義だったと考えています。

○議長（桜井崇裕） 2番 木下大地 議員。

○2番（木下大地） 清水町に住み続けてもらえるよう、十勝清水学の学習とあるのですが、その住み続けてもらえるという根拠は何ですか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 企画課長。

○企画課長（鈴木聡） やはり住み続けるというのはこの生まれ育った清水町というものに対して親しみをもって頂いて、長く住み続けたいという気持ちを持ってもらうということが大切かと思えます。また、住み続けることによって自らがこの清水町というものを良くしていくというような気持ちにもなっただけかと思っておりますので、その点がやはり住み続けるということに対する利点と言いますか、今後のまちづくりに生かしていけるものかと考えてます。

○議長（桜井崇裕） 2番 木下大地 議員。

○2番（木下大地） 小項目2番、前年度五十嵐さんが言っていたのですが、1年経って事業費の調査はどのくらい進みましたか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 社会教育課長。

○社会教育課長（藤田哲也） 木下議員のご質問にお答えいたします。昨年度模擬議会の中でお話がありましたのは、国内最大級の屋内スケートボードパークと、こういうお話でございましたので、これは仮にですけれども1千平方メートルの屋内の建物を建てた場合に、建設費では約5億5千万円程度お金がかかるのではないかと試算をしております。また、スケートボードパークに特化した部分としてバンクですとか、ランプといった、あとレールとかそういう機材がございまして、これは5種類程度でも5千万円程度金額が掛かるのではないかなというところございまして、屋内1千平方メートルの規模であれば約6億円程度の金額は必要になるものと試算をしております。

○議長（桜井崇裕） 2番 木下大地 議員。

○2番（木下大地） 清水町では、日本から人が集まる施設を作るとするならば、いくらまで、お金を出すことができるのですか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。総務課長。

○総務課長（神谷昌彦） まず、具体的にですね、これは試算をしてございませんので、なかなか現段階でどこまで出せるかというのは、明確なお答えはできませんけれども、もし、清水町にとってですね、必要な施設であれば、予算のですね、いろいろ調整をしながら建設を検討していきたいと考えてございます。

○議長（桜井崇裕） 2番 木下大地 議員。

○2番（木下大地） 清水町体育館のことで、緊急時の避難施設や防災施設としても利用できる施設を望むという回答とありますが、本来の体育館の機能というものほどのようなものなのですか。十勝大会、全十勝大会を開ける規模なのか、全道大会や全国大会を開けるほどの大きさの規模なのか、質問します。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。社会教育課長。

○社会教育課長（藤田哲也） お答えいたします。それぞれ、まず体育館の本来機能といたしましてはですね、いわゆる屋内スポーツ競技ということでございます。本町におきます体育館につきましては、バスケットボール、それからバドミントン、フットサル、更にバレーボールというような競技がそれぞれ行われておりますけれども、全十勝であれ、全道であれ、全国であれですね、それぞれのスポーツに公式の競技の面積がございますので、その面積をどこまで確保できるかというところが課題となっているところでございます。なお、現在の建物も第1競技場の床面積につきましては約1千平方メートルございます。ただ、公式の面積として、フットサルにつきましては、現行の第1競技場は公式面積は確保できないという状況になってございます。またあの、全道にせよ全国にせよ、1会場ですね、特に全国大会なんかはそうですけども、1会場で全ての大会をこなすというのは難しく、やはり帯広とか、芽室とか、近隣町の体育館とも一緒になった上で大会運営の会場として使われてくるというのが、全道や全国の特に規模の大きな大会になるかと思っておりますけれども、本町の体育館につきましては、公式の面積として比較的大きな面積を要する、バレーボール、バスケットボール、それからフットサルというものにつきましては、公式面積が1面程度になるかなというところを考えておまして、現在その点につきましてはですね、体育館の検討の中で協議を進めていくという状況になっているところであります。

○議長（桜井崇裕） 2番 木下大地 議員。

○2番（木下大地） 小項目3番、なぜ、いちまるは閉店してしまったのですか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。商工観光課長。

○商工観光課長（前田真） まず、いちまるを経営していたイオン北海道という会社の方がですね、私どもに撤退をする理由を教えてくださいましたので、まずそちらを紹介いたしますね。それは、一つは冷蔵設備が老朽化したということです。こちらに係る修繕経費が多大にかかるというお話をされておりました。あともう一つは、従業員を確保し続けるのが難しくなったというお話をしておりました。その二つです。つまりですね、商売を続けていく環境を維持することが難しくなったということです。いちまるを営業している、そのイオン北海道にですね、お尋ねしたところ、いちまるというのは1日に

6百人から1千人ぐらいの来客があったそうです。月にすると2万1千人から2万4千人、年間にすると27万3千人のお客さんが利用していたらしいです。ただですね、あの建物、いちまるというものがオープンしたときの住民説明会等のやり取りを見てみると、年間の利用客が40万人以上を想定していたようです。結局ですね、利用客がかなり減少したというのが、閉店理由の一つに、主なものに挙げられると思います。それはまずイオン北海道の話です。清水町役場というかですね、行政としての分析というか理由はですね、人口の減少によるものが大きいと思っています。あの当時ですね、開店したときの人口というのは1万1千人おりました。で、閉店したときには9千2百人になりました。で、その差千8百人で、率にしておおよそ17パーセントぐらいの人口が清水町から減少しています。あそこの店は清水町だけではなくて新得町や鹿追町や清水町を取り巻く町村からもたくさんのお客さんがみえられていました。そういった取り巻く町村の人口も減って、いわゆる商圈というその商売をするエリアの人口が減り、お客さんも減ったというのが主な理由だという具合に分析しております。

○議長（桜井崇裕） 2番 木下大地 議員。

○2番（木下大地） 今の、同じようなスーパーとかを建てても、人口減少によって来客の数が減ってしまって、また同じようなスーパーを建てることができないと思うので、違う方向としていちまるの跡地を考えていく必要があると思うのですけれども、今段階のいちまるの跡地はどの様に使うのか、どのように考えていますか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（前田真） 跡地利用に関しては、先ほど町長の方から答弁で申し上げましたとおり、持ち主が日本甜菜製糖株式会社という会社なので、その会社の方針もありますので、その会社とやり取りをしながら、跡地利用については考えようと思っています。勿論ですね、今木下議員がおっしゃるように、スーパーだったりホームセンターだったり、いわゆる小売業というものが入ることが、住民にとっては望ましいことなのかも知れませんが、今ご指摘の通りイオン北海道という会社がうまく行かなかった場所に同じ業種が入るといことはなかなか難しいので、そこはですね貸主である日本甜菜製糖と連絡調整を密に取りながら、こういった形が清水町にとって有効な活用方法になるかということをお話し合っていきたいと思っています。

○議長（桜井崇裕） 2番 木下大地 議員。

○2番（木下大地） 小項目4番のオリンピックメダリストの町を見ると、地域の企業がそのスケートボードパークを作っているのですが、企業への呼びかけをしてみてもどうですか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 社会教育課長。

○社会教育課長（藤田哲也） スケートボードパークに関しまして、民間の企業が設置するのかそれとも運営するのかということで、また設置と運営をすべて民間が担うのかということ、いろいろと形はあろうかと思いますが、民間の力を入れていくということですね、スケートボードパークに限らず、いろいろな部分で効果が高いものだなと考えてございます。清水町にはですね、現在企業立地促進条例というものがございます。この条例におきましてはですね、いろいろな分野、工場であるとか、観光施設であるとか、そういった各施設にですね投資の金額、こういったものを定めた上で一定程度の財政支援をするという条例制度を持ってございますし、そうい

った大規模な企業体のケースであっても、更に小規模な企業体であってもですね、地元雇用を生むことと、それから企業をそこで活動をしてもらうための支援施策というものを既に持っておりますので、こういったものを拡充する形の中で、考えていく必要があるかなと思っております。ただ、最初の答弁でも申し上げましたけれども、スケートボードパークにつきましては、かなり建設コストは膨大なものになるかというところがございますので、実施、建設するにせよ、そういった運営するコストにせよ、慎重な検討が必要かなと考えているところでございます。

○議長（桜井崇裕） 2番 木下大地 議員。

○2番（木下大地） 最後です。1項目目で時代に合った施策を考えるとのことですが、オリンピックで人気が上がった今こそ、この時期にスケートボードパークを作ることで若者がたくさん集まり、町内で気軽に楽しめる施設になるのではないかと考えています。このことについて町長の考えを最後にお伺いします。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 町長。

○町長（阿部一男） そうですね。最初の答弁でも答えましたように、今、やるとしたら今が旬な時かなということですがけれども、先ほどのどのくらいの金額が掛かりますかだとか、そんなことをあれしたときに、5億、6億という答えをあれしたんですけれども、それが町のね予算の中で、これから何年も掛かってその負債を背負った中で、現金ですぐ簡単に出せるものでもありませんので、そんなことをいろいろなことを考えていくと、やはり今やるならば、旬な時なのだけれども、なかなかではそうしますか、運営費もこれから、建物を建てるばかりではなくて運営していくのにどういふふうなことということ、ランニングコストも掛かりますし、なかなか厳しいところはあるかなと。そういうことも含めてもうちょっと時間で検討しながら、それからまたこの部分についてはですね、あとでアイスホッケーのところでも出てくるかと思えますけれども、今、このところに関心を持っている町村も多分いっぱい出てきて、あちらこちらにこういうのが出てきたときに、うちがそういうところのライバルをかき分けながら、そういうところでうまくこう、清水が、スケートボードパークの町として、これからそういうふうなことの中で進んで行けるかということもやはりちょっといろいろ考えて行かなければならないかな、そんなところがあります。いずれにいたしましても今日頂いた意見、先ほども答えましたように、いちまるの跡地も、我々も今、木下議員から言われる前に、こういうこともあるなということ、そこに目を付けておりましたので、そういうところで事業費や何かもすでに出してたりだとか、そんなこともありますので、もうちょっと時間をもらいながら検討を進めたいと思えますけれども、ただ、先ほど言ったように旬なことですから、あまり時間をかけても駄目だしということ、まあよそもあちこちやり出したら余計駄目な部分がありますので、そんなことも含めながら今出たいろいろな意見を参考にしながら、これから判断をしていきたいなと思えます。

○議長（桜井崇裕） よろしいですか。

◇・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◇

○議長（桜井崇裕） 次に 4番 伊達光紗葵 議員。

○4番（伊達光紗葵） 4番 伊達光紗葵です。

清水町の特産品のPRについて。

十勝清水町の食品は、生鮮食品から加工品まで数多くあり、どれもとても美味しいです。そんな清水町の特産品を私たちは多くの人に知ってもらいたいと考えています。

取材により、お祭りやイベントにおけるPRにより効果が上がっていることを伺いました。さらに、ふるさと納税の寄付金額が増えていることから、知名度が上がってきているのが分かります。

しかし、Twitterを使って清水町を知っているか独自に調べたところ、2千7百人から回答を頂き、その中で「知っている」と答えた人は40代から50代が多く、10代から20代の方はほとんど「知らない」と答えました。

清水町の特産品をさらにPRするためにも、若者をターゲットにしたPR方法を模索すべきだと考えています。そこで以下のことについて質問します。

小項目（1）町としてこれまでどのようなPRを行ってきましたか。また、その効果と問題点をどのように捉えていますか。

小項目（2）YouTubeやInstagram等のSNSを利用したPRはどれくらいの効果がありましたか。

小項目（3）PRの方法として、モニターを募集して、清水町の食品についての情報発信を行ってはどうか。

小項目（4）清水高校やJAなどと協力してPR方法を模索してはどうか。

小項目（5）清水町役場の中に、町外の人たちに向けてSNS等の活用方法を考える専門の課を設置してはどうか。

以上5項目質問します。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 町長。

○町長（阿部一男） それでは、伊達議員、中林議員のご質問にお答えをいたします。

まず小項目1、清水町の特産品のPRについての小項目の1、町としてこれまでどのようなPRを行ってきましたか、その効果と問題点をどう捉えていますかについてお答えをいたします。

本町では、「十勝清水肉・井まつり」などのイベントを通じた食のPRをはじめ、清水町観光協会と連携して、ホームページやSNSを活用した情報発信、また、道央圏、関東圏を中心とした、物産展への出展などを今まで行ってきております。

近年は、特産品を取り扱うふるさと納税額が増加しており、全国への特産品PRが順調に効果を上げているものと思われませんが、さらにPR効果を高めるため、今後は情報発信力のある若者をターゲットとした特産品の開発支援とPR方法が必要であると考えております。

2点目のSNSを利用したPR効果について、お答えをいたします。

町の若手職員が企画・運営する、YouTube「うっちゃんねる」というのがありますが、開始から1年を迎え、清水町の魅力あふれる観光スポットや、地元人気のグルメの動画による紹介が、好評を得ているところです。

あわせて、町観光協会と連携してInstagramやフェイスブックによるSNSを活用することで、リアルタイムに情報発信も可能となり、清水町に興味を持っていた多くの人が繋がることで、さらなるPR効果があったものと考えております。



次に3点目のモニター制度による情報発信について、お答えをいたします。

町や事業者からの情報発信だけでなく、モニターを募集して、清水町の特産品を食べた感想や、調理方法の提案などについて、情報発信することは、PR効果に加え、食品の質の向上に繋がるものと思われま

す。今後においては、町や観光協会が主催する食のイベントなど、必要に応じてモニターによる情報発信の機会を考えていきたいと思

います。4点目の清水高校やJAなどとの協力について、お答えいたします。

本町には、JA十勝清水町ブランドの「十勝若牛」や、にんにくをはじめとした数多くの食材や特産品が存在しています。

また、清水高校生産技術系列食品分野の生徒の皆さんが、地元食材にこだわり作り上げた創作パンが「パン甲子園」3連覇を達成している等、食のレベルが全国でトップクラスの町であると自負しているところであり

ます。更に、スイーツコンテストに入賞した作品が、セイコーマートで商品化されているなど、他の町には真似のできない、まさに若者をターゲットとした、効果的なPRを実施しています。

清水高校のみなさんには、先の質問でもありました食品モニターへの参加をはじめ、清水高校の強みを生かした情報発信力の活用を、町として連携して取り組んでいきたいと思

います。次に5点目、清水町役場の中に町外の人たちに向けたSNSの活用の方法を考える専門の課を設置してはどうかとのご質問にお答えをいたします。

小項目5点目のSNSの質問のお答えですけれども、現在、町外への情報発信手段としては、ホームページやフェイスブックを活用し、まちの情報やイベント情報などを発信しております。

また、情報発信の手段としてSNSを活用することは、大いに有効なものと考えており、本年度、まちの宣伝を行う地域おこし協力隊員1名を任用し、SNSを利用した情報発信の強化とまちの宣伝動画を作成しYouTube配信をする取組を行って

おります。ご質問のとおり専門知識を有した者を専属で配置することは、充実した内容を発信するうえで有効だと考えるところでもありますけれども、職員数には限りがあり、財政的な視点も考慮すると現在の体制を維持しながら、現在の情報発信を担当している企画課広報広聴係を中心にSNSなどを活用し、まちをPRしていきたいと考えて

おります。以上、答弁といたします。

○議長(桜井崇裕) 質問を受けます。5番 中林寿泉奈 議員。

○5番(中林寿泉奈) 5番 中林寿泉奈です。小項目1点目についての答弁に対して再質問させていただきます。

答弁では若者をターゲットとした特産品の開発支援とPR方法が必要と考えております。とおっしゃっていましたが、具体的にはどの様なものか、お考えをお聞きしたいです。

○議長(桜井崇裕) 答弁を求めます。商工観光課長。

○商工観光課長(前田真) 先ほどご答弁したとおり、さまざまな特産品が清水町にはございます。おそらく事前にたくさんの勉強をされてこの場に臨んでいるものだと



思います。で、私どもですね、SNSの利用率について調べてみました。で、利用率は圧倒的に若者の方が高いという統計がございます。これは特に20代においてはSNSの利用率というのは90パーセントを超えているという統計が、これは国の通信利用動向調査という総務省の調査があるのですけれども、これでもう具体的に示されております。で、若者にとってSNSを活用した情報発信が主流であるというのは、もうこれは紛れもない事実であると思っています。ということは、若者が喜ぶ商品が、SNSに載る確率が高いという具合に思っています。一般的に若者が好む特産品として、例えばそのまま生鮮の野菜だったり、お肉だったりするよりは、例えばスイーツだったり、加工品だったり、今流行の言葉でいうとインスタグラムで言えば、インスタグラム映えするような商品というものが、若者にとってのPR効果が高いと考えております。あの、先日セイコーマートで発売されました、皆さんが考案した十勝ラテアタルトのような、ああいった写真映えするような商品が若者に好まれるということを考えているところでございます。

○議長（桜井崇裕） 5番 中林寿泉奈 議員。

○5番（中林寿泉奈） ありがとうございます。次に小項目2点目についての答弁に対して質問させていただきます。答弁ではYouTube「うっちゃんねる」での動画による清水町の紹介が好評を得ている。また、インスタ、フェイスブックによるSNSの活用により更なるPR効果があったとおっしゃっていましたが、その効果、好評の情報はどこから聞いたものなののでしょうか。「うっちゃんねる」を視聴させていただき気付いたのが、コメント欄がオフになっているということです。コメント欄がオフになっていると動画を見た人の感想は聞くことができません。となると好評という情報はどの様にして得たものなののでしょうか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（前田真） 鋭いご指摘ありがとうございます。あの、中林さん、しみず広報の8月号をご覧になったことございますかね。うっちゃんねるのことについて6ページにわたって特集されております。撮影をした飲食店の方、まずは、こちらから大変好評であるというお褒めの言葉を頂いていたり、町長と住民が直接懇談会をする場が年に数回あります。その際にもですね、うっちゃんねるについてお褒めの言葉をたくさん頂いているところです。コメント欄は確かにオフになっているのですが、広報に掲載された8月上旬にはこのうっちゃんねるというのは、登録者が250人で視聴回数は8千回になっておりました。で、昨日ですね、私改めてこのうっちゃんねるを見てみたのですよね。そうすると登録者数が300人に増えて、再生回数も11,458回に増えていました。ひょっとしたらここに居る清水高校の皆さんが見ていただいたのかも知れません。是非ですね、皆さんも登録していただきたいなと思っております。私ですね、この度皆さんから教えを請わなければいけないなと思ったことが、今は私たちというのは評判というのを、対住民というリアルな場面で、懇談会という場で聞いたり、飲食店を通してその評判を聞いているのがほとんどです。あの、先ほど伊達さんがTwitterによって意識調査をしたっていうお話をしていました。役所というのは広く住民の意見を取り入れるときに、アンケートだったり、あるいは調査機関を使ったりして住民の意見、それからこういったものを見ている人の意見を聞くことがほとんどなのですが、SNSで意向調査というのはしたことがございません。だからひょっとしたらですね、その中林さんたちが調査したことの方が正しくて、私どもは身



近な住民から聞いた結果、好評だという自信を持ってですね、このうっちゃんねるは運営しているものの、町外の人にとってこれがどの程度有効だということを確信めいてですね、好評だということは言えないのかも知れません。あくまでも私たちが、そのうっちゃんねるが好評だというのは、そういった身近な人や口伝えによって好評だということを判断しているということをご理解ください。

○議長（桜井崇裕） 質問を受けます。 中林寿泉奈 議員。

○5番（中林寿泉奈） ありがとうございます。好評の声は地元の人からの声が多かったと聞きますが、そこをYouTubeという、どの世代にも、他の地域でも見れる動画ですので、コメント欄をオフではなくオンにして動画を見た人の感想や意見を今後に生かすというのはどうでしょうか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 企画課長。

○企画課長（鈴木聡） 実際うっちゃんねるを運営している企画課のほうからお答えさせていただきたいと思います。確かに幅広くご意見を求めて評価を頂くということは大切かと思しますので、今後オンにするような形に向けて検討というか、事務を進めさせていただきたいと思います。

○議長（桜井崇裕） 5番 中林寿泉奈 議員。

○5番（中林寿泉奈） ありがとうございます。次に小項目4点目についての答弁に対して再質問をさせていただきます。答弁では清水高校の生徒がパン甲子園やパーティシエロワイヤルで賞を頂き、商品化になり、他の町では真似できない効果的なPRをしているとおっしゃっていましたが、しかし、私たちは清水高校と清水町役場の方々やJAなどの団体との協力をしてPRする企画の模索を質問いたしました。セイコーマートや満寿屋さんでの商品化もちろん町のPRにはなりますが、それだけで終わらせずに多くの人に実力を認めていただいている清水高校と、直接企画を考えて商品のPRをするというのは可能でしょうか。

○議長（桜井崇裕） 商工観光課長。

○商工観光課長（前田真） 大歓迎です。是非ですね、そういった具体的な提案があるのであれば、商工観光課のほうに、頂きたいと思っています。ただ、もちろん皆さん学生ですので、校長先生や担任の先生のご理解というのは必要だと思いますが、自分たちがやりたいことはどんどん提案してきていただきたいと思います。コラボすることは今はセイコーマートさんだとかというお話が出てきたのですけれど、役場としてもですね、清水高校の生徒たちといろいろなコラボをして特産品をPR、あるいは開発、支援するということは歓迎しております。先ほど申した、例えば食のイベント等のモニター制度も含めてですね、是非、斬新なアイデアを役場の方へぶつけていただきたいと思います。

○議長（桜井崇裕） 5番 中林寿泉奈 議員。

○5番（中林寿泉奈） ありがとうございます。次に小項目5点目について再質問させていただきます。答弁では、まちの宣伝を行う地域おこし協力隊が、SNSを利用して取り組んでいるとおっしゃっていましたが、ネットで調べた地域おこし協力隊の活動報告を見たところ、SNSを利用した宣伝がメインではなく、酪農家の搾乳のお手伝いがメインとして動いているように感じました。これではあまり宣伝効果はないのではないかと思います。そここのところをお聞きします。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 企画課長。

○企画課長（鈴木聡） 企画課からお答えさせていただきます。地域おこし協力隊につきましても、ネットで調べた情報につきましても、もしかしたら、酪農に関するものは別の町の地域おこし協力隊の可能性があるかなと思っています。現在清水町で地域おこし協力隊として任用している者につきましても、今、実際酪農に関するものは募集はしているのですけれども、まだ、応募が無いというような状況でございます。そのほか、清水町で今任用しているのは、ふるさと納税の推進員とあと町の宣伝、あと観光推進と、あとは文化振興の関係の協力隊を任用してございます。地域おこし協力隊につきましても、地域の課題を解決するために、そのまちづくりに意欲ある方を任用していくという方針で考えてございますので、必要な目的に沿った協力隊というものを任用して、活動していただきたいと考えてます。

○議長（桜井崇裕） 5番 中林寿泉奈 議員。

○5番（中林寿泉奈） ありがとうございます。次に小項目5点目について再質問させていただきます。答弁では企画課広報広聴係を中心にSNSなどを活用して町をPRしていきたいとおっしゃっていましたが、広報だとターゲットが町民の方ですので、町外をメインとするSNSの宣伝の仕方は、また、別のものを考えなければいけないので、大変ではないでしょうか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 企画課長。

○企画課長（鈴木聡） お答えさせていただきます。確かに広報につきましても、毎月発行しております広報紙、お知らせ版の発行が確かに業務の主となってございますけれども、町民向けということで皆様にお伝えするものを作成させていただいております。ただ、広報広聴係の業務としましては、それ以外にホームページやフェイスブックなどで町外に発信するというのも広報広聴係の業務としてございます。確かに人数的には限りある人数でやってございますけれども、いろいろな職員の定員ですとか、財政面とかもございまして、限られた職員の中で頑張りたいと思っておりますので、現在担っております広報広聴係と、町の宣伝協力員という地域おこしも任用してございますので、その職員の頑張りによって町のPRというものをしていきたいと考えてございます。

○議長（桜井崇裕） よろしいですか。 5番 中林寿泉奈 議員。

○5番（中林寿泉奈） ありがとうございます。最後の質問で、私たち清水町にはおいしい食べ物や優れた食材がたくさんあると思っています。町内の資源を使った食品作りも取り組んできました。しかし、10代20代の若者がほとんど知らないという現実がありますが、このことについて町長さんのお考えをお聞きしたいです。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 町長。

○町長（阿部一男） はい、あの、おいしい物沢山あると言うのは、私もそういうような認識をしておりますけれども、若い人がなおさら知らないというのは、そういうところもあるのかなというところは多少持っています。実は今有名になっている、例えば牛玉ステーキ丼というのは10年かかってこういうようなPR効果がうまくいって、数年前からそこそこの売り上げが出てだとか、年2万5千だとか3万食が売れるだとか、そんなふうになってきて、去年10周年の記念の年でしたのでね、今年11年目、それだけの長いスパンが必要だということがあります。それから、これは全道的にどっちかというところ有名であります。全国的に有名な、例えば牛とろ丼だとか、そういったのが十勝スロウフードの、清水町にあります御影にありますね。全国

的に有名な部分のはそういうものがありますけれども、これはもっともっと、20年で  
きかない恐らく30年に近いぐらいな年月の、いろいろな努力によってPR効果も含  
めて、それからおいしい物の改良も含めて、そういうような年月をかかってようやく  
こう、全国、今、ふるさと納税でも清水町2億ぐらいのふるさと納税があるのだけ  
ども、まあ、そのうちの1億以上がこのスロウフードの牛とろを中心としたものが  
それだけ出ているのですけれども、そんな努力があって初めて、いろいろなことが  
出てくるのでね、若者が知らないというのであれば、それらも今までと違ったね、  
ターゲットをまた新たに持ちながらね、そういうところも含めてしっかりと、やはり  
どうやって宣伝していくかというのは、今まで議論してきたとおり、大切なこと  
なので、そんな部分も含めながら、今後の、せっかく食の魅力のある町として  
私も普段そういうようなことで、外に発信しておりますけれども、それらが少し  
でも、町内はもちろん町外の皆さん、そしてまた若者の皆さんにね、そうや  
って広まっていくことを、みんなと一緒に、ここにいるみんなと一緒に、あ  
るいは皆さん方の知恵をお借りしながら、しっかりと発信して行けるよう  
な状況を取って、まだまだたくさん売れてくれるような方法を取りたいと思  
っておりますので、その辺についてもよろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（桜井崇裕） ここで休憩します。なお、再開は2時45分とします。  
(午後2時35分)

○議長（桜井崇裕） 休憩前に引き続き会議を開きます。  
(午後2時45分)

◇・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◇

○議長（桜井崇裕） 一般質問を続けます。次に6番 真野寛也 議員。

○6番（真野寛也） 6番 真野寛也です。アイスホッケーを通  
した町おこしについて、私たちは「アイスホッケーの町」である清  
水町を、アイスホッケーでさらに活性化させたいと考えています。  
そのためには、アイスホッケー人口の増加、知名度の向上が必要で  
す。



現在、清水高校、全十勝A、御影グレッズは全国的にも有名で、  
毎年全国から7～8名の選手が清水町に集まっています。アイスア  
リーナもあり、最適な環境だと思いますが、選手の受入体制やイベントの盛り上がり  
など、清水町全体での取組やサポートに課題があると感じました。そこで以下の点に  
ついて伺います。

1 清水町とアイスホッケーの関わりについて、これまでアイスホッケーの普及、  
活動の支援等についてどのような施策を実施してきましたか。

2 清水町体育館の建て替えに際して、アイスホッケーの練習場やバスケットコ  
ート、フットサルコート等の複合スポーツ施設を作ってはどうか。

3 御影グレッズを支援する高須クリニックと協議して、女子専用の下宿の設置や  
CMにアイスホッケーを登場させるなどの取組を検討してはどうか。

4 新年氷上祭りの幼児体験イベントなど、小さい頃からアイスホッケーに触れら  
れる新たなイベントを企画してはどうか。以上4点について質問します。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。町長。

○町長（阿部一男） それでは真野議員、水口議員、白鳥議員のご質問にお答えをい

たします。

アイスホッケーを通した町おこしについての1点目でございます。清水町とアイスホッケーの関わり、普及、活動支援についてでありますけれども、清水町におけるアイスホッケーの歴史は、大変長く、昭和12年に御影小学校の教諭の呼びかけで初めてアイスホッケーチームが結成されたとの記録があります。当時は十分な設備もない中、御影地域の方々の熱意のもと、学校の校庭に水をまき、陸上でのリンクが作られていました。そして、徐々にアイスホッケー熱が高まり、昭和30年に御影中学校アイスホッケー部、昭和41年には清水高校アイスホッケー部が創部されており、さらに社会人チームも結成され、それぞれのチームが全道・全国大会で輝かしい成績を収めるようになりました。

こうした背景のもと、平成4年に全国の町村では初めて、天候に左右されない屋内アイスアリーナを町が建設し、アイスホッケーの一層の普及を進めて参りました。

現在は、清水町アイスホッケー協会に施設を管理していただくとともに、普及・指導の核となっていていただいているところであります。

2点目の体育館の建て替えに際し、複合スポーツ施設を作ってはどうかのご質問についてでありますけれども、新たな体育館建設においては、総合体育館としてバスケットやフットサルなど、現在、利用している各種競技をベースにするとともに、幅広い年代の方が気軽に健康づくりができる施設にしたいと考えております。

ご質問の中のアイスホッケーの練習場を作ってはどうかの点については、清水町にはアイスアリーナがあるわけですから、これらを十分に利活用していただきたいと思うところであります。

3点目の女子専用の下宿の設置やCM登場の取組については、スポーツ活動へのスポンサー支援として企業側のお考えもお聞きしながら検討したいと思っております。

また、下宿の設置であります。女性が安心して生活できる専用下宿は需要が見込めるではと感じるところです。さらに、空き家対策としても有効ではないかと考えますので、民間事業者による設置を支援することも検討したいと考えております。

最後に4点目の小さい頃からアイスホッケーに触れることができる新たなイベント企画についてでありますけれども、現在、指定管理者という制度のもとでアイスアリーナを管理する清水町アイスホッケー協会により、新年氷上祭りや幼児ホッケー教室が開催されています。新たなイベント企画についても協会と協議しながら検討して参りたいと考えております。

以上、ご質問の答弁といたします。

○議長（桜井崇裕） 質問を受けます。 7番 水口晴斗 議員。

○7番（水口晴斗） 7番 水口晴斗です。小項目1での答弁について再質問します。ここ数年で行っている施策は何がありますか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 社会教育課長。

○社会教育課長（藤田哲也） 先ほど1点目の質問につきまして町長から答弁がございました。



再質問でも同様の趣旨のご質問があったということはですね、お聞きになりたい点についてはこういうPR活動や、こういうことをしてますよという具体的なものが知りたいのかなと思っておりますが、先ほども町長の答弁であった点につきましてはですね、

アイスアリーナが建ったときに、7億7千万円の建設費を投じまして、現在もこれを維持していると。町村でこのアイスアリーナという建物を、建設し維持している町というのはですね、本当に限られている。こういった環境を作ることが、まずアイスホッケーの普及と支援として本町が取り組んできた一番の部分であると、いうことを町長が先ほど答弁したところでございますので、最初にこの点をご理解いただきたいと。また、施設の維持管理につきましてはですね、指定管理者という制度の中でそういった普及や指導活動をアイスホッケー協会の方に委託をしております。この中で活動の具体的なことで申し上げますと、1年間を通じた中で、各種のアイスホッケー大会を開催しているということ、それからアイスホッケー教室につきましてもですね、幼児を始め、ほかの世代についても、現在開催しております。また、少年団活動や部活動の指導につきましても、このアイスホッケーの施設維持管理の中の一項目として行っているということ。それから皆さん今ご質問でもありましたけれども、新年氷上祭りということで、アイスホッケーの方々も含めてですね、町民に足を運んでいただく機会として、イベントを実施していると。これらにつきましては毎年実施をしてくれているということでございます。従いまして、具体的にこういったことが毎年繰り返されてできているのですよということで、いわゆる外向けにPRとか、そういった部分につきましては現時点でここ数年間の部分は無いのかなと思っておりますが、現在これはあの、今後の部分になってしまいますけれども、現在、アイスホッケー協会と話をしている点としては、先ほど来SNSのお話もありましたが、アイスホッケーをやっている風景を、例えばYouTubeでライブ配信で見れるようにするとかですね、そういったような取組についても、今後の部分としてですが、検討したいということで協会と協議をしているという状況にあります。

○議長（桜井崇裕） 8番 白鳥太陽 議員。

○8番（白鳥太陽） 8番 白鳥太陽です。アイスホッケーとは他のスポーツよりやっぱりお金が掛かるものだと思います。そこで新しい施策として、アイスホッケーを始める人たちにお金を支援してみてもどうですか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 社会教育課長。

○社会教育課長（藤田哲也） まず競技者の方にはですね、金銭的な給付をするという考えにつきましては、行政としては現時点では持っておりません。いろいろなスポーツがある中で、それぞれ金額がかかる、かからないという点についてはですね、あろうかと思えます。あるスポーツではかかる部分があったり、かからなかった部分があったりと、ということがあると思えますけれども、本町としてはですね、金銭的な給付を個別の競技者にするのではなくて、やはり低料金の中で各施設を利用いただくと、いう形態を充実していきたいと考えてございます。

アイスアリーナの施設につきましては年間で約5千万円の維持費がかかります。これに対して現在の使用料は1千5百万円程度の収入を得て、毎年行政が3千5百万円程度の費用を持ち出した中で施設の維持と運営を行っているという状況にありますけれども、可能な限りこういった施設使用料という部分につきましてはですね、子育て支援の観点も含めて、今後利用しやすい環境を作っていくということを検討していきたいと考えているところでございます。

○議長（桜井崇裕） 7番 水口晴斗 議員。



○7番（水口晴斗） 小項目2での答弁について再質問します。リンクではどうしても時間や回数に限りがあります。そこで、野外ででき、あまりお金がかからないインラインスケート場を設置してみてもいいですか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 社会教育課長。

○社会教育課長（藤田哲也） 金銭的な部分につきまして、屋外インラインスケート場であれば、いわゆるきめの細かなアスファルト材であれば、形として出来上がるのかなということは考えますし、屋内施設を作るよりもコスト的にも比較的少額に済むのかなというところは感じるところでございますけれども、まず、本町として今申し上げたアイスアリーナという施設を維持している訳でございますし、そこで行われるアイスホッケーそのものをですね、やはり楽しんでもらって感じてもらうということが何より重要なのではないかと考えているところでございます。

○議長（桜井崇裕） よろしいですか。 7番 水口晴斗 議員。

○7番（水口晴斗） 小項目3での答弁について再質問します。具体的に計画している民間事業者はいますか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 社会教育課長。

○社会教育課長（藤田哲也） 小項目3の中の具体的な検討の民間事業者とは、下宿の設置の話でよろしいでしょうか。下宿の設置につきましては、具体的な民間事業者の、特にこの方が企業を立地したいと、いうお話が現時点であるという状況では、残念でございますがありません。

○議長（桜井崇裕） 8番 白鳥太陽 議員。

○8番（白鳥太陽） 民間事業者に直接働きかけてみてはどうですか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 社会教育課長。

○社会教育課長（藤田哲也） 民間事業者の方に働きかけをしたときにですね、うちの町にはこういった土地の空いている場所があるよとか、こういった空き家があるから改築して下宿にできるのではないかとか、そしてアイスアリーナというものがやはりあったら、その部分に新たな建物を作ったり改築するとなると、十勝管内に帯広の森のアイスホッケーがありますけれども、あの辺近郊と比べれば比較的安く民間事業者が設置できるかも知れない。というような点はあるのかなとは思いますが、例えばそういった部分につきまして、企業の方にですね、そういった問い合わせがあった場合については、そういった利点をいろいろ宣伝したいなと考えてございます。現時点で広く事業者の方に、民間会社の方にここに入っただけであれば、こういう下宿を建てただけであれば、こういった財政的支援をします。金銭的に支援をしますよというような部分につきましても、検討の段階にあるということでございますので、こういったものの検討経過も踏まえた上で、その上で民間事業者の方に、お声がけをしていくという流れを考えたいなと思っております。

○議長（桜井崇裕） 6番 真野寛也 議員。

○6番（真野寛也） 6番 真野寛也です。小項目3のCM登場の取組について質問します。CMを依頼するときに、アイスホッケーをPRするのもそうなのですが、清水町も同時にPRすることでより知名度も広がると私たちは考えています。そこでCMをぜひ依頼してはどうですか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 社会教育課長。

○社会教育課長（藤田哲也） テレビコマーシャルという意味合いでのCMかと思

ます。具体的な見積もりとかそういったことを企業さんのほうとお話しした経過は無いですが、相当な費用がかかるのかなと考えているところでございます。当然テレビのコマーシャルの効果というのは絶大かなという点はある反面で、かなり費用対効果の部分では検討をせざるを得ないのかな、というところを感じるところでございますけれども、CMにアイスホッケーを登場させるということにつきましても、町長から答弁があった通り、企業のほうともご協議をする場面を検討したいなと思います。

○議長（桜井崇裕） よろしいですか。 7番 水口晴斗 議員。

○7番（水口晴斗） 小項目4での答弁について再質問をします。具体的な案がなかったの、人が多く集まるどんぶり祭りやにんにく祭りで、ホッケーブースを設置するのはどうですか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 社会教育課長。

○社会教育課長（藤田哲也） 議員からのご提案につきましても有効な一つの手法かなと感じるところではございますけれども、やはりアイスアリーナにですね、直接足を運んでいただいて、そこでアイスホッケーを体験いただくようなイベントというものを充実していくと、いうことがまず第一歩目なのかなと感じているところでございます。町民そのものがですね、やはり人口減少、どこの町もそうです。少子化も含めて人口減っているのですけれども、その中でアイスホッケーの競技人口もやはり少しずつ減っていったら、これをまず増やしていったら、更にコマーシャル等も含めて知名度を上げていくということが、アイスホッケーそのものを通したまちづくり、町おこしにつながるというお考えかと思っておりますので、清水町外の方々がアイスホッケーを体験していただくということも必要ですけれども、町内の方々がアイスホッケーを体験していただく、という機会の充実もやはり一緒に必要なのかなと思っておりますし、申し上げた点から言えば、アイスアリーナでまずは町民の方々、特にご指摘のあった幼児とか小さい頃から触れる機会、こういったものの充実をまず重要視しながらですね、イベントについて、企画をしていくということを検討したいと思っております。

○議長（桜井崇裕） 6番 真野寛也 議員。

○6番（真野寛也） 清水町のアイスホッケーは知名度もあり、御影グレッズには過去にオリンピック選手も在籍していました。今もアイスホッケーを目的に留学や移住されている方もいます。私たちはさらに力を入れた支援策が必要だと考えます。最後に町長のアイスホッケーを活性化させることについての考えを伺いたいです。

○議長（桜井崇裕） 町長。

○町長（阿部一男） 今のアイスホッケーの状況を、いろいろ見ていると、例えば、君たちアイスホッケー部、みんな、3人、すごいね。はい、今30人ぐらいいるよね、3学年合わせてね。これ以上男子は多分いっぱいいても、各学年ちょうど10人ぐらいいるでしょ。いっぱいいても補欠の人がいっぱい出たりしてね、いろいろな出場機会だとか、いろいろなことを考えると、今の男子の部分はこのぐらいで、これ以上落ちないように。公立高校はみんな例えば釧路江南だとかなんか20人きっているだとか、そんなことになって来ているけれども、公立高校の中で本当に清水高校というのは大健闘している状況があって、今までのような状況が続いていけば良いと思うのですけれども、もし、いろいろなことで、まだまだ高校の問題だとかいろいろなことを考えると、先ほどから出ている女子の下宿も含めた、女子の選手のちゃんとした

核を。そして御影グレッズで確保して、それが高校にまた繋がって行けば、高校の入学もあれするというようなことでね、そんなところは質問受けて、ああこれは良い質問だなと思ったところがあって。その中でコマーシャルあれしなさいだとかいろいろなことがあるのだけれども。例えばね、ここまで知って皆さんが質問してくれたかどうかは分からないけれども、高須クリニックの院長というのはアイスホッケーをやっていたのですね。ちゃんと知ってるね。その縁でちょっといろいろなことの中でね、頑張っている清水町にスポンサーになってくれたのですけれども、いろいろなことがあって、必ずしも企業ですから、企業というか病院という企業ですからね。いろいろな事があって今後それ以上にまた支援をしてくれると。今ね、それがまた難しいところもいろいろ出てきたりしてますので、新しいあの部分も含めて、いろいろやっていかなければならないなということもありますし、それから先ほど言ったようにね、女子のあれで担当課長が答えたように、専用下宿のね、ことというのは女子ばかりではなくて、ほかも含めてね、中学生や何かのものも含めてね、少し地域の中で、これからそういうことで高校は今いっぱいだけれども、中学生がさらに、地域の中学校に入学してくれればそれはそれでまた良いことなのでね。それを女子まで幅を広げて、いろいろなことをこう地域の中でそうやって検討してくれて行けば、より良い方に行くかなということですね。ないというお話もしましたけれども、少しは今そういう考え方が、我々も含めて参加した中で、そういう機運だとかそんなのは少し盛り上がってきていますのでね。また、そんなことの中で、更に強みを、アイスホッケーの強みを発揮しながら、清水高校も含めて清水町の町が発展してきたように、スポーツの部分ではこのアイスホッケーをまた、もっと輝き続けることができるようなね、施策をとっていくことが町の発展、維持に、こう繋がっていくのではないかなと思うので、皆さんから提案を受けたところ、私も同じように思うところがいっぱいありますので、今後についてもしっかりとその方向で、進んでいきたいと思っておりますので、期待を、ちょっとだけ期待をしていただきたいと思いますし、本当にもっと大きく広がってほしいな、広がって行けばいいなと思っておりますのでね、頑張ってやっておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。皆さんはしっかりと、また、全道大会、インターハイに向かって、勝って良い成績を残してくれることも、これのPRに一番繋がっていくことだと思いますので、そちらの方も頑張っていたいただきたいと思いますし、私も頑張ってまちづくりに進んで参りたいと、進んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをしたいと思います。

○議長（桜井崇裕） よろしいですか。

◇・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◇

○議長（桜井崇裕） 次の質問に移ります。 9番 西垣波音 議員。

○9番（西垣波音） 9番 西垣波音です。清水町の公園の在り方について。本町には公園が21か所ほどありますが、ほとんどの公園の遊具は古びてきています。また、有明、中央、清水公園を除く小さな公園では、人を見かけるのが稀なほど利用者が減っているのが現状です。

清水小学校の令和2年度新体力テストの集計結果から、全国的に全国平均を下回っていることが分かりました。こうした小学生の運動能力の低下や、本町の人口減少を打破するためには、ほかの市町村からも人が来る





ような魅力的な公園を整備すべきです。

保護者や児童に行ったアンケートの結果から、スリルのある遊具を望んでいることが分かりました。利用者が楽しく遊びながら運動できる大型複合遊具やベンチ等を設置し、公園を利用する人を増やす施策を提案します。

小項目1点目、子どもの公園の利用状況を把握していますか。

小項目2点目、公園の充実には何が必要であると考えていますか。

小項目3点目、保護者や児童から要望が多かった以下の遊具を設置してみてもいいですか。一つ目、体力向上に向けた、追いかけてこなどに利用できる障害物の設置をしてみてもいいですか。二つ目、スリルのあるアスレチックやターザンロープを設置してみてもいいですか。

小項目4点目、公園は子どもが遊ぶだけでなく、保護者の方達の交友関係を広げるためにも有効です。有明公園などの大きな公園に、子どもを見守りながら休憩できるベンチやテーブルを多く設置してみてもいいですか。以上の4点について質問します。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 町長。

○町長（阿部一男） それでは、西垣議員、片岡議員の、清水町の公園の在り方についての答弁をさせていただきます。

まず公園の在り方についての1点目の質問でありますけれども、清水町が管理する公園は清水地区16か所、御影地区4か所、下佐幌地区1か所合わせて21箇所あります。子どもの利用が多い公園は清水公園で、池やボートもあるため土日や祝日は町内外から家族連れを中心に、多くの方が訪れております。また、清水中央公園、御影公園は噴水や遊具、北星公園、栄公園、西文化公園では遊具があることから幼児から小中学生が比較的多く利用している状況です。

小項目2点目の質問についてであります。公園は緑豊かで開放的な環境の下、散策や休息、遊び、スポーツなど、異世代が集まり憩いの場として楽しむには、遊具や休憩施設の充実や、さくら、つつじ、うめなどの季節ごとの花木の整備も引き続き必要であると考えております。

小項目3点目の質問でありますけれども、清水中央公園と御影公園には新たな遊具施設を7月に設置しましたが、それ以外の公園は老朽化した遊具もあるため、遊具更新や新設をする際には、体力の向上や運動機能を持った遊具などを含め、利用対象者の年齢も考慮し安心して安全に利用できるものを設置していきたいと考えております。

小項目4点目の質問についてであります。有明公園はスポーツ運動ゾーンと緑地ゾーンに分かれており、現状の休憩施設としてベンチ6脚と四阿1棟があります。御影公園は新設した遊具や噴水の周りにベンチ11脚と四阿3棟が設置されております。また、清水中央公園は今回の遊具の更新に合わせてお子さんを見守ることができ、安心してご利用いただけるようベンチ8脚を設置致しました。なお、今後においても利用状況など見ながら、テーブルやベンチの設置も含め利用者の憩いの場として楽しんでいただけるよう、考えていきたいと考えております。以上答弁とさせていただきます。

○議長（桜井崇裕） 質問を受けます。 10番 片岡剛琉 議員。

○10番（片岡剛琉） 10番 片岡剛琉です。中央公園などでは、比較的多くの人数が利用されているということですが、どのような方法で利用状況を把握したのですか。



○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 建設課長。

○建設課長（内澤悟） 中央公園が利用されているという形なのですけれども、利用状況の数値的な人数の把握はしておりません。というのは21公園、あるような形がありまして、平日、休日、土曜、日曜、それとあと天候ですか、それによりましていろいろな形の中で変わります。そして状況の把握としましては、定期的に遊具だとか公園施設内の点検を、職員がやっております。そしてその時にですね、利用状況というか、そういうものをちょっと把握しながら、進めてきているところでございます。以上です。

○議長（桜井崇裕） 10番 片岡剛琉 議員。

○10番（片岡剛琉） 利用者からの意見を聞いたことがありますか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 建設課長。

○建設課長（内澤悟） 特に利用者からというか、本年度ですね、清水の中央公園と御影の公園、そちらの方の複合遊具の設置をしております。そしてこれに関しましては、町長の方と語る会だとか、あとはいろいろな懇談会、等々という形の中と、アンケート、総合計画ですね、6期の総合計画に向けてのアンケート、その中で遊具の設置等々という要望というものがありましたので、それに合わせた中でですね、進めてきたような形でございます。

○議長（桜井崇裕） よろしいですか。 10番 片岡剛琉 議員。

○10番（片岡剛琉） 小項目2番についてお伺いします。 遊具や休憩施設の新設や、更新の予定はありますか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 建設課長。

○建設課長（内澤悟） 遊具の更新に関しましては、今お話ししたような形で、清水の中央公園と御影公園、こちらの方は町民憩いの場という形の中で、多く集まるような形でございます。今、清水公園、そちらの方に関しましてですね、清水公園の再整備事業という形のを、今検討しているような形がありまして、既存に複合遊具がでございます。そしてその複合遊具をですね、更新するのか、新設でまたほかの物を付けるのか、それも含めてですね、今後いろいろな形の中で検討していきたいということで考えております。

○議長（桜井崇裕） 10番 片岡剛琉 議員。

○10番（片岡剛琉） 子供を見守りながら、保護者も楽しめるように。そのような憩いの場として焼き肉などができるスペースを作ってみてはどうですか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 建設課長。

○建設課長（内澤悟） あの、今焼き肉のお話しなのですけれども、公園内の中でですね、今、清水公園と下佐幌公園、それとちょっと公園ではないのですけれども、アリーナのパークゴルフ場、その3か所にバーベキューハウスを一応設置しているような形になっております。そして今現在で行けば、その場でグリーン帯も周りにありますので、そこで集まってですね、談話なり、焼き肉だとか、それをやっているのが現状であるのかなということで、新たに建設というか、そういうことは、今のところは考えていないような形でございます。

○議長（桜井崇裕） よろしいですか。 10番 片岡剛琉 議員。

○10番（片岡剛琉） 小項目3番についてお伺いいたします。体力の向上や運動機能を持った遊具とは具体的にどのようなものでしょうか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 建設課長。

○建設課長（内澤悟） 体力やという形の話なのですが、具体的にというか、一般通常的に言われるのが、アスレチック系統という形になると思います。ただし、アスレチック系統という形の中でもですね、結構ターザンロープでこう、何て言うのですかね、ひもを張って、だーって斜面をやったりだとか、あと高い位置を渡ったりだとか、いろいろな形のものがあると思いますので、その辺をある程度揃えるような形の中の物が体力づくりの遊具になるのかなということ考えているところでございます。

○議長（桜井崇裕） 10番 片岡剛琉 議員。

○10番（片岡剛琉） 小学生や幼稚園児の保護者の方々にアンケートを取った結果、アスレチックのようにスリルのある遊具がほしいという要望が、非常に多くありました。アスレチックを設置してみてはどうでしょうか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 建設課長。

○建設課長（内澤悟） 今回の、先ほどから何回もお話ししているような中央公園、それと御影公園、あちらの方が複合遊具という形にはなっているのですが、見ていただいたかどうかちょっと分からないのですが、実際的に滑り台が付いていてですね、さっき言ったちょっと高めのところには渡りができるだとか、そういうものを設置しております。本格的なアスレチックですか、という形になれば、年齢がかなり上になると思います。そうすると、幼児だとか、そういうものはちょっとなかなか使いづらいような形になると思いますので、今の現段階では町民憩いの場では、そういう幼児関係の、アスレチック系の遊具というのは整備されたのかなと、いうことで考えているところでございます。

○議長（桜井崇裕） はい。 10番 片岡剛琉 議員。

○10番（片岡剛琉） 今公園にある遊具は、ほとんどが低学年の子供向けの物であり、高学年の子供たちが遊べるようなものは少ないと思っています。年代問わずに楽しめる遊具や、スポーツをする場所を作ってみてはどうでしょうか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 建設課長。

○建設課長（内澤悟） 全体的に21か所という形の中で、膨大な形の、たくさんの公園があるような形になっております。それで、今議員言われるのは、多分、町内町外者、集まったような形のという形になると思いますので、そうすると、清水公園、そちらの方のお話をしているのかなということで、ちょっと感じているところでございますので、清水公園に関しましては、実は清水公園の再整備検討委員会というのが令和2年にですね、発足しまして、そして実際に令和2年2月1日に構想案というものを答申しております。町の方に答申しております。そしてその中に、アスレチックだとか、ターザンロープ、あとはジャンボスライダーというものも含めてですね、ある程度そういうものを作っていくってはどうだろうか、というようなお話しが上がってきておりますので、その辺、今後におきましてですね、それらも含めて、いろいろな形の中で検討して、設置の方を考えていきたいと、いうところで考えているところでございます。

○議長（桜井崇裕） よろしいですか。 10番 片岡剛琉 議員。

○10番（片岡剛琉） 小項目4番についてお伺いいたします。テーブルの設置は予定されていますか。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 建設課長。

○建設課長（内澤悟） このテーブルも全公園、ある程度集まるような公園ですね。分かりました。形態としまして、例えば清水公園だとか、中央公園、あと御影の公園もですね、結構グリーン帯の中で、晴天の中で、自分達シートを持ってきて、昼食だとかくつろいでいる場面もちょっと見ておりますので、今のところ既存でテーブルもあるようなところも公園内にありますので、それは利用状況を見ながら、いろいろな観点でちょっと考えていきたいと、いうことで考えているところでございます。

○議長（桜井崇裕） よろしいですか。 10番 片岡剛琉 議員。

○10番（片岡剛琉） 最後の質問です。ほかの市町村から人が来るような公園を作ることが、飲食の経済効果や清水町のPRにつなげることができると考えています。清水町における公園の在り方について、町長の考え方を伺いたいです。

○議長（桜井崇裕） 答弁を求めます。 町長。

○町長（阿部一男） そうですね、町内はもちろん町外からも、たくさんの方が来てくれて、その人が清水の美味しいものを食べてくれてというふうなことが、循環として一番そういう流れになるのが一番良いかなと思っております。そのためにはやはり先ほどから21の公園全部ですかとかいろいろなことを聞きながら答えているのですけれども、そんな中でそういう役割を持つ公園、あるいは町内の人だけが憩いの場として子供の休憩、それから遊ぶ場としてということのすみわけをしながら、やっていくのが大事でないかなという思いは持っています。そんな中で清水公園については、質問のとおり、これからもまだまだよそから集まってもらって、あそこのレストランで食べていただいて、そしてまたレストラン以外にね、途中に来る、山から下りてくるときに、高速から降りてくるときに、上のドライブインだとか、それからほかのところも含めて、そこで食べていただいて、人を呼べるような公園にこれからして、まちづくりを図っていくというのは、私が町長になった時からこういう構想を持ちながら、いろいろと進めてきていることでもありますし、今後も今の二人のね、意見を参考にしながら、人を呼べる公園づくりに努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。貴重な意見ありがとうございました。

○議長（桜井崇裕） これで一般質問を終わります。

#### <閉 議>

○議長（桜井崇裕） これをもって、模擬議会は全て終了しましたので、会議を閉じます。

#### <副議長挨拶>

○議長（桜井崇裕） 副議長より、閉会にあたり挨拶があります。副議長。

○副議長（高橋政悦） 皆さんお疲れ様でした。

今回2回目ということもあって、通告、再質問共にとても良い内容だったと思います。

特にボードパークについては、阿部町長、なかなか難しい企画だよという、立場上

そのような答弁でしたけれども、オリンピック種目にもなったことですし、清水町の新体育館も出来るということで、タイミング的にはとても良い機会だと、そのことも町長おっしゃっておられました。本来、阿部町長、そういう旬な話題とか、そういう企画、嫌いではない。いや、むしろ大好きな方です。なので、実現に向けて大いに期待できる内容だったと思います。

今後は今回の経験を糧に、今月末には国政選挙もあります。是非政治への興味を失わず、清水町のまちづくりについても、積極的に関わって行ってほしいと思います。

そんな皆さんの未来に、大きな期待を寄せて、挨拶とさせていただきます。

ご苦労様でした。

### <講 評>

○議長（桜井崇裕） 町長より、本日の会議について講評を頂きます。

阿部町長。

○町長（阿部一男） それでは講評ということで、私からお話をさせていただきます。

まずもって皆さん、高校生の皆さんばかりでなく、すべての関係者の皆さん、本当に大変お疲れさまでした。

今回いろいろな意見を頂きながら、大変有意義な時間をね、過ごせたかなと思うところがあります。

そしてまた、特に去年もそういう感想を持ったのですけれども、更に今年は皆さんのこの直球勝負の質問に、それから再質問にちょっと冷や汗もかく場面もありました。

最後副議長がうまくね、私のあれをまとめてくれた部分もありますけれども、そんなところを感想を持っているところでもあります。講評をそれぞれの項目について言おうと思っていたのですけれども、今回はなおさら最後にみんな私の方に、多分議員の皆さんの指導があったのかなと思いますけれども、振ってくれた、そして最後全部私が答えておりますので、講評でも言おうかなと思ってた内容でありますので、重複は避けたと思いますので、詳しくは、その最後に言ったことをまた参考にさせていただければなと思うところがあります。

ちょっと本当はどこかで言いたかったところだったのですけれども、特産品のところでね、お二人の質問をいろいろ受けたのですけれども、今回の高校パーティシエロワイヤル 2021 で、中林さんそれからもう一人の方、それから伊達さんは直接関わっていなかったかもしれないけれども、多分でも、応援して見ていたと思うのですけれども、私も実はこの間、日曜日とそれから発売になった日かな、2回にわたって実は食べました。買ってきて食べました。とっても美味しかったです。どうしてこれが優秀賞なのかなと、思ったくらいで何で最優秀ではないのかなと、食べたら、今回 Web 上で、インターネット上でやったのだね。多分食べていたら間違いなく最優秀になっていたと思います。審査員の人がね。そのぐらいにコクのある美味しい物でありましたので、そういうのも含めて、コラボはどうですかというお話でしたので、今後どしどし、そんなことも含めてコラボをしながら、新しい製品開発だとかそんなことにも、役場としても力を入れながら、皆さんと一緒に、若い皆さんと一緒にこう、いろいろなことを。高校は皆さん今3年生で卒業しますけれども、引き続きいろいろな人が引き継いで、生産系列の部分というのはみんな学んでくると思いますので、どんどんそういう皆さんと一緒に、新たなものを開発しながら清水町のPRに持っていければな

と思うところであります。それから最後副議長の方もちょっと言いましたけれども、これからね、今の話題とちょっと離れますけれども、選挙があります。10月31日に国政選挙があるということで、まずこれはほぼ確定でしょう。そうすると11月の1日までの人が、皆さんの中で選挙権を、高校3年生の人で、もう誕生日来た人は選挙権があることになりますので、しっかりと国政でありますけれども、もちろんそういうところで政治にしっかりと関心を持ちながら、行っていただきたいなと思います。なぜこういうことを言うかという、去年もちょっとお話をしましたけれども、実は、シルバー民主主義というのがあって、これは最近そういう言葉が出てくる状況ですけれども、有権者全体の中で高い割合を占める高齢者向けの施策が。ごめんなさい、これ言います。私「せさく」と呼んでいるのですけれども、皆さん「しさく」と言っていましたね。これ「しさく」が正しいですからね。「しさく」と呼ぶのがあれで、インターネットで変換しても「せさく」と言ったらこの言葉出てきませんけれども、「しさく」であります。ただ、ずっと慣例で「せさく」と言う言葉を行政用語として使ってきたので、私その答えをしましたけれども、先生方に指導を受けたと思うのですけれども、「しさく」の方が正しいですので、ここで訂正させていただきます。そして、施策が優先される政治のことでありまして、更にですね、20代若者の得票率が低い、だから、例えば清水町で直近のいろいろなことの中でデータを調べてみますと、20から29歳の人732人いるのです。10歳の間にはそれだけいます。そして、65歳から75歳の間に1,550人います。黙っててもこの10歳の幅の中に2倍の高齢者の方がいることになります。でも更に投票率を考えたら、若い人たちがどうも投票率が悪い。投票に行かなくて。40パーセントぐらいだと言われていました。41パーセントと言われていました。高齢者の方たちもちろん100パーセントではないのですけれども、76.何パーセントという直近のデータが出ています。それで計算すると、303人しか意思を示していないのです。20代の若い人は。ところが、65歳から74歳までの人は千5百何人のうち投票率をかけると1,184人、もともと2倍いたのが、意思表示している人は4倍になっていくのです。だから高齢者の人の意見だけが、こう尊重されるような、そういうような、やはり政治になってしまうということをしつかりと認識しながら、せめて得票にだけは高齢者と負けないような、選挙の投票だけは高齢者に負けないようなあれをしながら、自分の意思を、ちゃんと示していただければ。これが2045年だとかそういうふうになっていくとまだまだ、この倍がね、さっき約4倍と言いましたけれども、4.2倍だとか4.3倍になってきます。それだけ、若い人の意見というのは、なかなか聞きにくいような状況になっていきますので、そんなことで皆さんが、しっかりと意思を示しながら政治に参加していただきながら、やっていただければなと思います。

なかなか人口減少問題で子供たちが特に少なくなっている時代ということで、10年後20年後までのこう、未来の人口というのがこう、想定されていて、なかなか子供たちがどんどん少なくなっていくという、10年後20年後の未来は変えられないのだけれども、皆さんが大人になる、例えば50歳ぐらいになる頃の、これから30年後ぐらい、2050年のときになると、少しでも自分のものでもって、10年20年後はなかなか厳しいデータはあるけれども、30年後の未来は変えられるのだということで、ぜひぜひ政治に関心を持ちながら、しっかりとした社会人になっていただければなと思います。そんなことを皆さんに申し上げながら、私の今日の講評に代えさせていた

できます。本日は本当にお疲れさまでした。ありがとうございます。

#### <生徒代表挨拶>

○議長（桜井崇裕） 本日の模擬議会に向けて、学習に取り組んできた10名の生徒を代表して、西垣波音さんより、ご挨拶を頂きます。演壇にお進みください。

○生徒代表（西垣波音） この度はお忙しい中、模擬議会を開いていただき、ありがとうございました。

この機会に私たちは清水町の現状や活性化への取組について、改めて深く考えることが出来ました。今回の活動の経験を活かして、将来自分が住む町の活性化に役立てていきたいです。

今日はありがとうございました。

#### <閉 会>

○議長（桜井崇裕） 以上をもって、模擬議会を閉会します。

#### <修 礼>

○事務局長（田本尚彦） ご起立願います。礼。

清水町議会会議規則第 126 条の規定  
により署名する。

清水町議会議長 櫻井崇裕

---

署名議員 中林 寿泉奈

---

署名議員 白鳥 太陽

---

署名議員 片岡 岡り琉

---



# 資 料

## 開催までの経緯

年 月 日	項 目	内 容
R 3. 2. 18	清水高校との協議	令和3年1月28に議会委員会構成が変わり、議会運営委員長が交代したことを受けて、議長と議会運営委員長が高校校長と面談、令和2年度模擬議会終了のお礼と令和3年度の実施のお願いについて協議。
R 3. 4. 8	清水高校より年間計画提示	令和3年度第3年次「総合的な探求の時間」地域研究の年間計画案が議会事務局に提示された。
R 3. 4. 21	清水高校より参加生徒、テーマの提示	地域研究の参加生徒と各班のテーマについて町議会事務局に提示された。
R 3. 4. 26	町執行側への協力要請	清水高校と実施に向けて協議済みの模擬議会開催について、執行側の出席と一般質問答弁の対応について町長に対し議長、議会運営委員長が協議経過を説明し、協力要請。
R 3. 5. 27	清水高校との協議	清水高校小林教諭と議会事務局の間で、模擬議会実施までのスケジュール確認等を行った。
R 3. 6. 29	模擬議会事前学習	清水高校の授業において、模擬議会に向けた事前学習を開催。議長、議会運営委員会5名の議員と事務局職員2名が参加。各議員から一般質問の仕方などについて発言後、各班のグループワークに議員が加わり、質問テーマについて意見交換を行い、議員からアドバイスを受けた。
R 3. 9. 7	模擬議会開催について協力依頼	議長から町長に対して模擬議会開催の協力について依頼文を手渡す。
R 3. 9. 8	町執行側に対し模擬議会一般質問通告	9月7日までに高校生が取りまとめた一般質問について、議会事務局から総務課に対し質問を通告。
R 3. 9. 14	清水高校生議会傍聴	第5回9月定例議会の一般質問を清水高校生が傍聴。
R 3. 9. 21	答弁要旨提出	町執行側より議会事務局に対し答弁要旨提出。同日清水高校小林教諭宛て送付。
R 3. 9. 28	模擬議会事前学習	清水高校の授業において、模擬議会のリハーサルを開催。議員全12名と事務局職員2名が参加。当日の進行を確認。生徒たちは議員のアドバイスを受けながら、答弁要旨をもとに再質問の内容を検討。
R 3. 10. 5	模擬議会開催	清水町議会本会議場において、桜井議長の議事進行により模擬議会を開催。4項目の一般質問・答弁を行う。

模擬議会議席表

◇模 擬 議 会 議 席 案

【傍聴席】 深沼達生 川上 均 中河つる子 佐藤幸一 西山輝和 奥秋康子 加来良明

鈴木孝寿		山下清美		中島里司		口田邦男		高橋政悦
------	--	------	--	------	--	------	--	------

3番 岸上 樂 きしがみがく		4番 伊達 光紗葵 だてみさき		6番 真野 寛也 まのともや		9番 西垣 波音 にしがきなる	
2番 木下 大地 きのしただいち		1番 小野田 蓮 おのだれん		5番 中林 寿泉奈 なかばやし		7番 水口 晴斗 みずぐちはると	
		8番 白鳥 太陽 しらとりたいよう		10番 片岡 剛琉 かたおかたける			

御影支所長	社会教育課参事	社会教育課長	学校教育課長	
本田雅彦	安ヶ平宗重	藤田哲也	大尾 智	

町 長	副 町 長			
阿部一男	山本 司			

農林課参事	農林課長	子育て支援課長	保健福祉課長	町民生活課長
水野秀明	寺岡治彦	近藤芳行	佐藤秀美	齊木良博

総務課長	総務課参事	企画課長	農業委員会局長	税務課長
神谷昌彦	山田寿彦	鈴木 聡	高橋英二	青沼博信

	水道課長	建設課長	商工観光課長
	小林 進	内澤 悟	前田 真

演 壇

説明用控	総務課参事		会計管理者
	竹中直也		青木光春

--	--	--	--

議 長	事務局長
櫻井崇裕	田本尚彦

事務局	事務局
宇都宮	長谷川

十勝毎日新聞 令和3年7月2日

# 高校生よりよい町提案へ準備中

## 町議招き質問こつ学ぶ

【清水】清水高校（吉村教賢校長）の3年生10人が6月29日、10月に町議会（桜井崇裕議長）で実施する模擬議会に向けて、町議を招いた勉強会を開いた。

## 町職員へヒアリングも

同校は昨年度初めて模擬議会を開催。今年度も経済系の大学進学や公務員を志望する生徒を対象に実施する。模擬議会では町理事者に対して一般質問形式で政策提案することとしており、生徒は役場職員らにヒアリングするなどして地域課題について調べている。この日は議会運営委員会（中島里司委員長）の委員5人と桜井議長が来校。4グループに分かれ、一般質問に向けた情報収集の方法や、質問を組み立てることなどを話し合った。生徒は「公園遊具の充実」や「町営のカラオケ店の設置」などさまざまな提案を予定。議員は理事者に提案を納得させるために、それぞれの提案がどのように多くの町民の利益につながるか示すことなどを助言していた。



一般質問の組み立て方などについて議員からアドバイスを受ける生徒

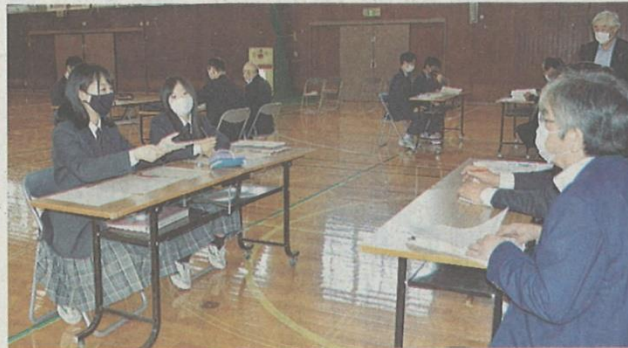
桜井議長は「相当の準備をされている。模擬議会でも貴重な体験ができることを期待している」と講評。岸上楽さん（17）は「今日学んだことを生かして頑張りたい」と話した。

（丹羽恭太）

十勝毎日新聞 令和3年10月3日

## 高校3年生、政治参加へ一歩

質問する際の注意  
点などを町議に聞  
く生徒たち(左)



### 模擬議会に向け 提言リハーサル

清水高

【清水】清水高校(吉村教  
賢校長)の3年生が議員とな  
って町に政策提言する模擬議  
会(5日)に向け、9月28日

に同校体育館でリハーサルが  
行われた。桜井崇裕議長ら全  
町議13人が訪れ、町側に質問  
する際のポイントなどをアド  
バイスした。

模擬議会に参加するのは、  
授業の総合的な探究の時間で  
地域の課題や解決法を研究し  
ている3年生10人。これまで、  
役場各課へのヒアリング、幼  
稚園児の保護者や小学生への  
アンケートなどを実施して、  
高校生目線で町の課題や解決  
法を考えてきた。

模擬議会では、本会議場で  
生徒たちが議員となり、一般  
質問形式で町側に政策提言す  
る。阿部一男町長や各課長も  
参加する。

当日は本会議と同様の流れ  
で実施するため、リハーサル  
では会議の進行手順などを一  
つ一つ確認。数グループに分  
かれ、町議から再質問すると  
きの注意点を教わった。

(平田幸嗣)

十勝毎日新聞 令和3年10月16日

# 「若者集まる施設を」

## 清水高生模擬議会 阿部町長に質問



まちづくりについて提言した高校生

【清水】清水高校（吉村教習校長）の3年生が議員となり、高校生目線のまちづくりを町に提言する模擬議会が5日、町議会本会議場で開かれた。「議員」になった生徒9人が、一般質問形式でさまざまな考えを阿部一男町長に投げ掛けた。

桜井崇裕議長が議事進行し、阿部町長や山本司副町長、各課長らが生徒たちの質問に答えた。

最初に質問に立った木下大地さんは「清水高校の生徒を対象にしたアンケートでは、多くは町内に若者が集まる施設が欲しいと考えている」と指摘。その上で「東京五輪で注目されたスケートボードパークを、建設計画がある町体育館に併設しては。また、いちまる跡に開設する事業者を誘致する考えは」とたざした。

阿部町長は「スケートボードパークは有効だと考える。誘致については町民の利便性も考え検討していきたい」と答えた。

他にも生徒たちは、SNS（ソーシャル・ネットワーク）キング・サービス）を活用した特産品のPRを提言。また、幼稚園児の保護者や小学生に実施したアンケートを基にした町内の公園の在り方や、授業で研究してきた町の課題、解決法などについて自論を展開した。

（平田幸嗣）

清水町議会清水高校生模擬議会会議録

令和3年11月

清水町議会事務局

北海道上川郡清水町南4条2丁目2番地4

TEL 0156-62-3317